

平成25(2013)年度社会福祉法人あかつき福社会
事業報告書

社会福祉法人あかつき福社会

2013 4月



お花見 <ワークセンター>

7月



スポーツ大会 <わんすてっぷ>



あかつき福祉会納涼祭

10月



ハロウィンパーティ <ワークセンター>

12月



2013年忘年会 <ワークセンター>

5月



バーベキュー大会 <ささゆり園>

8月



夏のプール活動 <ワークセンター>



マジックショー <ささゆり園>

11月



トワイライトプログラム&宿泊体験
<ささゆり園>

2014 1月



もちつき大会 <ささゆり園>

6月



せいなん幼稚園児とさつま芋の苗植え



流しソーメン大会 <ささゆり園>



西南ジャンボリー



秋まつり <わんすてっぷ>

3月



GH-CH全体会 <支援センター>

1. 平成25(2013)年度全体概要報告

(1) 虐待防止に向けた取り組み

箕面市障害者ショートステイ室において、平成25年6月、職員による身体的虐待事案が発生し、再発防止に向けて職員研修の強化やショートステイ室の業務マニュアルの再整備等の取り組みを図った。

また、第三者委員を含む虐待防止・サービス向上委員会を平成26年1月に発足させ、今後の虐待防止・サービス向上策の検討を開始した。

(2) 過年度決算の修正

箕面市より平成25年11月13日付けで、当福社会の「就労支援事業会計」について、改善通知が出されたことに伴い、平成21年度から平成24年度決算の修正を行った。合わせて、「就労支援の事業の会計処理の基準」に改めて照合した結果、平成22年度・平成23年度・平成24年度箕面市立あかつき園（就労継続支援B型）の利用者、平成23年度・平成24年度箕面市立ワークセンターささゆりの利用者に追加工賃を支払う必要があることが判明した為、平成25年12月および平成26年3月に追加工賃の支払いを行った。

今後、同様の誤りが発生しないよう、平成26年度以降に向けた自主監査の導入等の体制を整備した。

(3) 「運営の基本方針」「職員の行動指針」の見直し

「運営の基本方針」「職員の行動指針」の見直しについて、当福社会内に昨年度よりプロジェクトチームを発足させて検討を行ってきたが、平成25年12月の評議員会・理事会で承認され、新たな「運営の基本方針」「職員の行動指針」を策定した。

(4) 箕面市立あかつき園と箕面市立ワークセンターささゆりの事業統合対応

箕面市立あかつき園で実施してきた生活訓練事業の課題点を踏まえ、箕面市との協議を進め、平成26年度より生活訓練事業を廃止し、箕面市立あかつき園と箕面市立ワークセンターささゆりを統合して、生活介護：定員70名、就労継続支援B型：定員10名の多機能型事業所「箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり」となることになり、円滑な事業統合に向けた対応を行った。

(5) 箕面市立障害者福祉センターささゆり園の指定管理期間延長対応

当福社会が現在指定管理者として運営している箕面市立障害者福祉センターささゆり園の次期指定管理（平成26年4月1日～平成31年3月31日）公募について、平成25年9月に応募を行ったが、平成25年11月に選定が中止となった。その後、平成26年2月に箕面市より指定管理期間延長（平成26年4月1日～平成26年10月31日）の申し入れがあったため、指定管理期間の延長に向けた対応を行った。

【平成25(2013)年度実施事業等】

1. 法人本部(総務課)
2. 箕面市立あかつき園〈指定管理〉
【実施事業】①自立訓練(生活訓練)事業 定員10名
②就労継続支援B型事業 定員10名
3. 箕面市立ワークセンターささゆり〈指定管理〉
【実施事業】生活介護事業 定員60名
4. わんすてっぷ
【実施事業】生活介護事業 定員15名
5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園〈指定管理〉
【実施事業】①園管理運営事業 ※社会福祉増進事業含む
②生活介護事業 定員20名
③日中一時支援事業(放課後教室)
④施設入浴サービス事業
6. 地域生活総合支援センター
【実施事業】①共同生活援助・共同生活介護事業
(第2つながりの家、第9つながりの家)
②短期入所・日中一時支援事業
(箕面市障害者ショートステイ室)
③居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業
(ヘルパーステーション「ウイズ」)
④相談支援事業
(ウイズ)

2. 法人本部（総務課）

(1) 概要

- 過年度決算の修正作業に多くの時間を費やしたため、平成25年度事業計画の取り組み全体に遅れが生じた。
- 新会計基準への移行については、他法人の移行状況調査等を実施し、一定の準備は行った。しかし、実際に移行を実施する時期については、平成26年度からの移行は見送り、より準備を整えた上で、平成27年度から移行することとした。
- 「運営の基本方針」「職員の行動指針」の見直しに時間を要したこと等もあり、平成26年度以降の新たな長期計画の作成を平成25年度内に行うことが出来なかった。
- 介護を担う人員の確保に向けて、幾つか新たな取り組みも行ったが、なかなか思うような確保には至らなかった。

(2) 重点目標・課題への対応結果

	重点目標・課題	対応結果
1	新会計基準への移行対応	○新会計基準への移行に向けて、外部研修に参加し、他法人へのヒアリングを含む移行状況調査を行った。 ○規程の整備など一定の移行準備は行ったが、平成26年度からの移行は見送り、平成27年度から移行することとした。
2	新長期計画(平成26-30年度)の作成	○年度当初より検討・議論を進めてきた。 ○「運営の基本方針」「職員の行動指針」の見直しに時間を要したこと等もあり、新たな長期計画の策定にまで至らなかった。
3	あかつき園建替計画の検討	○建替計画の作成に向けて、他法人の運営する施設の見学や箕面市との協議を進めてきた。 ○最終的に、建替イメージの具体化にまで至らなかった。
4	情報発信力の強化	○ホームページのリニューアルに向けて、作業を進めた。 ○最終的に、リニューアルまでには至らなかったが、おおよその準備は出来た。 ○ブログの定期更新は、目標の10件/月までは達成できなかったが、3~5件/月の更新を行った。
5	人員確保策の検討・実施	○他法人の募集状況調査を行った。 ○新たに募集チラシの作成、専門学校への求人連絡、支援職員募集をもみじだよりに掲載するなど幾つかの新たな取り組みを行った。

	計 画	実施結果
6	平成24年度アンケート結果を踏まえた取り組みの推進	<p>○来所者アンケート、家族向け施設見学会を実施した。</p> <p>○試行的な第三者による施設評価の導入を検討したが、最終的に今年度の実施には至らなかった。</p>

(3) 今後について

- 適正な会計・決算処理の確立に向けて、自主監査の導入等、新たな体制のもとチェック体制の強化を図っていく。
- 新会計基準への移行に向けて、引き続き、情報収集等を行っていくとともに、適正な移行が行えるよう規程改正、実務対応について十分な準備を図っていく。
- 介護職員の不足を解消していくため、多様な募集告知方法の活用、新たな採用手法の検討・試行をしていく。
- ホームページやブログなどを活用しながら、情報の受発信機能の強化に引き続き取り組んでいく。

(4) 理事会・評議員会開催状況

<理事会>

- ・第1回 平成25年5月31日
案件 = 平成24(2012)年度決算、評議員選任 など
- ・第2回 平成25年12月24日
案件 = 平成21(2009)～24(2012)年度決算の修正 など
- ・第3回 平成26年2月14日
案件 = ささゆり園の指定管理期間の延長 など
- ・第4回 平成26年3月25日
案件 = 平成26(2014)年度事業計画及び予算 など

<評議員会>

- ・第1回 平成25年5月30日
案件 = 平成24(2012)年度決算、理事選任 など
- ・第2回 平成25年12月20日
案件 = 平成21(2009)～24(2012)年度決算の修正 など
- ・第3回 平成26年2月13日
案件 = ささゆり園の指定管理期間の延長 など
- ・第4回 平成26年3月24日
案件 = 平成26(2014)年度事業計画及び予算 など

3. 箕面市立あかつき園<就労継続支援B型事業>

(1) 概要

- 家庭との連携を密に行い、利用者の状況を適切に把握し、安定的な利用に繋がった。(利用率96.4%)
- 製袋作業について、関係機関との連携のもと生産・配送等について、他事業所とのシェア方法等について検討を進めてきた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	生活訓練から移行する利用者の安定利用	○生活訓練からの移行者1名について、障害状況・作業適正等の把握に努め、家庭との連絡調整を行い、円滑な利用に繋がった。
2	安定的な経営のあり方を検討 (1)新卒利用者及び生活訓練からの移行者の安定利用 (2)就労継続支援B型事業の検証・見直し	○新卒者1名、生活訓練からの移行者1名、計2名を新規利用者として受け入れ、障害状況・作業適正等の把握に努め、家庭との連絡調整を行い、円滑な利用に繋がった。 ○製袋作業のあり方について、現利用者の作業能力等に応じた生産方法等の見直しを行った。
3	適切な進路支援の実施及び社会資源の的確な情報把握	○契約終了予定者について、本人の意向・障害状況・作業能力等を勘案し、市内の社会資源の調査・見学及び就労・生活支援センター等との相談などを行い、体験実習(3日間)を経て就労移行支援事業所への移行を行った。
4	多様な働く機会の経験	○製袋作業を中心に、館内清掃等に取り組むとともに、箕面市障害者事業団の緑化事務所やリサイクルセンターでの職場実習を実施した。加えて、利用者個々の社会生活スキルに応じて、挨拶・公共交通機関の利用・買い物等のスキル向上の取り組みを行った。
5	し尿中継所に代わる箕面市指定ごみ袋保管場所の確保	○し尿中継所の継続利用が可能となり、現状通りとなった。しかし、今後の製袋事業のあり方の見直しに合わせて、製品の保管場所については引き続き検討していく。
6	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供機会の強化 (2) 進路支援後の支援策 (3) 職員の資質・専門性の向上	○チーム別懇談会に合わせて見学会を実施し、日頃の活動状況を見てもらう機会を提供するとともに、実習生等には「来所者アンケート」を実施し、外部からの意見を聴取した。 ○職員の資質の向上については、支援アドバイザー相談にて、個々の利用者の障害特性に応じた支援スキルの向上を図るとともに、外部の専門研修や人権研修で資質の向上を図った。

(3) 今後について

- 製袋作業について、他事業所とのシェア等について関係機関と調整の上、その方法等の検討を行う。合わせて、し尿中継所が変わる保管場所の確保について検討していく。
- あかつき園とワークセンターささゆりの統合によって80人規模の単価となり、介護給付費収入が減少するため、新たな利用者の受け入れ等の検討を行っていく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 箕面市指定ゴミ袋の生産

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
年間売上金額	74,470,791円	83,705,923円	75,535,482円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年比
就労継続支援B型	56,095円	56,095円	48,038円	85.64%

②施設外支援

実習先	参加人数(実数)	参加延べ日数	職種
箕面市障害者事業団	5名	42日	緑化部門(花壇管理等) /4名・38日 リサイクルセンター /1名・4日

③その他の活動

- 館内清掃
- 健康活動(ラジオ体操、ウォーキング、ダンス、体重測定)
- 日常生活・社会適応訓練(適切な話し方、買い物、公共交通機関の利用など)
- 生活相談(臨床発達心理士の助言・指導)

(5) 在籍者状況（平成26年3月31日現在）

	在籍者人数	平均年齢	平均在籍	平均利用率	平均利用人数
平成25年度	9名	24.22才	6.22年	96.40%	9.56人
平成24年度	8名	23.78才	5.09年	94.98%	8.18人
平成23年度	10名	23.79才	6.90年	93.95%	10.25人

平成25年度利用者障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	5名	4名	0名	0名

3. 箕面市立あかつき園<生活訓練事業>

(1) 概要

- 新規の利用者は無く、定員10名に対し、7名の利用に止まった。
- 個々の利用者への支援にあたっては、障害特性に応じた情報提供手段の検討や環境整備を行い、多様な活動を通して本人の「得意なこと」「苦手なこと」など、それぞれの特性把握とそれに応じた支援方法の確立を図ってきた。
- 家庭生活上の課題が大きかった利用者について、本人にとってより自立した生活へのステップアップを図るため、グループホームへの入居に向けて関係機関と連携した斡旋調整等を行い、新たな生活の場に繋げた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	新規利用者の円滑な受け入れ	○新規利用者が今年度はなかった。
2	安定的な経営のあり方の検討 (1)平成26年度新規利用者の確保 (2)生活訓練事業の検証・見直し	○これまでの利用状況等を踏まえて抜本的に見直し、検討した結果、より利用者の障害状況や意向に即した事業として、「生活介護」事業へ箕面市との協議を経て、平成26年度より事業変更することとなった。
3	平成24年度利用開始利用者の進路移行支援	○進路支援として、利用者の障害特性や作業能力等を見極め、就労継続支援B型事業へ1名、生活介護事業へ6名（うち1名は、わんすてっぷ）の移行を図った。
4	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供機会の強化 (2) 進路支援後の支援策 (3) 職員の資質向上及び障害特性に係る専門性の獲得	○チーム別懇談会に合わせて見学会を実施し、日頃の活動状況を見てもらう機会を提供するとともに、実習生等には「来所者アンケート」を実施し、外部からの意見を聴取した。 ○職員の資質の向上については、支援アドバイザー相談にて、個々の利用者の障害特性に応じた支援スキルの向上を図るとともに、外部の専門研修や人権研修で資質の向上を図った。

(3) 今後について

■当該事業については、制度上想定している利用者の障害状況と実利用者の障害状況の不一致や、利用期間が2年間であることでの精神的な負担などの課題があったが、「生活介護」事業への移行を行ったことにより、これらの課題について一定解決が図られた。「生活介護」事業においても引き続き、利用者個々の障害特性にかかる課題解決を図っていくとともに、より利用者の長所が生かせる活動へと繋げていく。

(4) 主な活動内容

- ①全体活動（所外活動など）
- ②作業訓練（製袋、館内清掃、公園清掃、農園、空き缶リサイクル、ペットボトルキャップ分別など）

ア) 箕面市指定ゴミ袋の生産

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
年間売上金額	3,658,000円	0円	2,360,480円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年比
生活訓練	13,517円	0円	28,439円	—

- ③日常生活・社会適応訓練（買い物、調理、図書館利用など）
- ④健康活動（ラジオ体操、ウォーキング、ダンスなど）
- ⑤創作活動（描画）
- ⑥文化活動（ハンドベル演奏）
- ⑦社会活動（地域清掃、公園清掃）
- ⑧生活相談（臨床発達心理士による助言・指導）

(5) 在籍者状況（平成26年3月31日現在）

	在籍者人数	平均年齢	平均在籍	平均利用率	平均利用人数
平成25年度	6名	20.00歳	2.00年	92.83%	6.42人
平成24年度	9名	21.38歳	1.21年	94.74%	8.53人
平成23年度	9名	22.00歳	4.00年	97.22%	8.75人

平成25年度利用者障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	4名	1名	1名	0名	0名

4. 箕面市立ワークセンターささゆり

(1) 概要

- 長年ワークセンターささゆりを利用し、当福祉会グループホームにも入居していた利用者が、若くして病気のために亡くなるという悲しい出来事があった。本人の気持ちを尊重し、亡くなる2週間前までサービスを利用してもらい、精一杯生きることの尊さを教えて頂いた出来事でもあった。
- 年度途中で、医療的ケアが必要になった利用者に対して、退院後もワークセンターささゆりを利用してもらえるよう、介護職による認定特定行為(胃ろう・痰吸引等)ができる体制整備を図った。
- 「事故・ヒヤリハット・苦情・困難事例」の記録化の周知・徹底を図った結果、その報告件数が前年より大きく増加した。発生事案を見ると、職員の不注意、判断力の甘さ、対応能力の不足等、初歩的な問題も散見されたが、他方、困難事例では根本的な解決が難しい事例も目立った。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用率向上に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携は連絡帳・電話により適時実施した。 ○欠席時の相談支援において、欠席理由だけでなく、次回利用予定日を確認し、出席の意識付けを実施した。 ○結果として、出席率は平成24年度実績と比して微減であった。(94.16%→93.53%)
2	平成26年度利用者増に向けた対策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○平成25年度、優先順位での移行者はなかった。 ○今後は、進路移行対象者を利用開始施設によって切り分ける方法等への見直しを検討する。
3	進路支援対応の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○1名について、進路移行支援を実施した。(平成25年12月から市内生活介護事業所へ移行) ○移行困難な最重度利用者の進路支援の具体的方策は、未確立に止まった。 ○法人独自の生活介護事業の開設は、シミュレーションを行ったが経営的に不成立と判断した。今後は、対象想定利用者を変更等した検討が必要である。
4	チーム編成の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の活動を、チーム合同で実施した。 ○柔軟な職員配置は、職員の休職等もあり、未実施であった。 ○平成25年9月から、特別な配慮や支援が必要な利用者の統合に向けた取り組みを一部実施した。
5	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○施設見学者・ボランティア・実習者・研修者(14名)アンケートを実施し、集計・評価し、職場内にフィードバックした。 ○見学会を実施し、保護者13名の参加があった。 ○第三者評価は、平成26年度に公的な評価機関による実施を行うこととし、平成25年度は未実施となった。 ○支援に係るセルフチェック・面談は38名に実施した。 ○職員に障害特性に係る研修及び情報提供を実施した。また、職員を全国自閉症者施設協議会大阪大会に派遣した。
6	新規採用支援職員の早期育成	<ul style="list-style-type: none"> ○対象支援職員が休職となり、実施できなかった。

計 画		実施結果
7	地域との交流の深化	<ul style="list-style-type: none"> ○月曜日の対面販売を継続実施、定着させた。 ○市営駐車場一角での授産製品販売は、企画そのものがなくなったため、実施できなかった。 ○3階ホールの貸館については、行政財産使用許可が必要となることから、1団体への貸館に止まった。

(3) 今後について

- 事業移行に伴う定員拡大によって、きめ細かなサービスの提供が疎かにならないよう、欠員に対する適切な人材の採用を進めていく。
- 事故・ヒヤリハット・苦情・困難事例の分析と活用、指定管理者アンケート、第三者評価、来所者アンケート等によって見えてくる利用者ニーズや経営課題に対して、真摯に向き合い、サービス・満足度を向上させていく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
箕面市指定ごみ袋の生産	9,098,000円	8,664,700円	12,436,341円
さをり製品等製造販売	111,784円	134,388円	133,988円
ペットボトル、アルミ缶等リサイクル	180,924円	132,512円	178,375円
農園芸	1,839,420円	2,039,401円	1,267,870円
ケーキ・パン等	652,018円	558,395円	289,926円
計	11,882,146円	11,529,396円	14,306,500円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃(特別工賃を含んで換算)

平成24年度	平成25年度	対前年度比
11,746円	14,352円	122.19%

②その他の活動

- ア) 健康活動(機能維持訓練・ストレッチ、ダンス活動、プール、ウォーキング等)
- イ) 日常生活・社会適応訓練(図書館利用、買い物実習、調理実習、喫茶店、外食等)
- ウ) 創作活動(描画、貼り絵、手芸、季節イベントの飾り作り、コラージュ等)
- エ) 文化活動(DVD鑑賞、音楽鑑賞、音楽活動、ハンドベル、クラブ活動等)
- オ) 社会活動(地域清掃、古切手の切り取り等)

(5) 在籍者状況(平成26年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成25年度	59名	27.2歳	8.5年	93.53%	56.8名
平成24年度	59名	26.9歳	8.1年	94.30%	57.1名
平成23年度	62名	27.0歳	9.5年	93.40%	57.9名

平成25年度利用者障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	20名	26名	9名	4名	0名	0名

5. わんすてっぷ

(1) 概要

- 介護保険対象者1名について、介護保険サービス利用に伴い週4日から週3日に利用日が減となった。
- 高齢家族の介護負担軽減のため、在宅介護支援センター等と連携した結果、基準該当生活介護サービス(入浴サービス利用)利用に繋げ、週5日利用から週3日利用となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	法人独自事業としての安定経営	<ul style="list-style-type: none"> ○利用希望者の書類選考・実習を経て、3月に1名の利用者と新たに契約を交わした。結果、16名の利用契約者となった。 ○送迎サービス実施により、利用者の心身の安定に繋がった結果、利用率を維持することができた。 ○新規利用者の募集・受け入れや活動充実化の検討のため、施設再整備案等の検討は十分にできなかった。
2	利用者・家族の高齢化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者及び家族の生活支援のため、基幹相談支援センター、中央地域包括支援センターと連携して家庭訪問を行い、障害福祉サービスの情報提供を行った。その結果、「成年後見制度」「居宅介護事業(通院等介助、移動支援)」「入浴サービスのある基準該当生活介護事業所」との利用契約に繋がった。 ○介護保険サービスの利用に当たっては、箕面市担当課と連携し、丁寧に情報提供を行い家族の不安の軽減に努めた。
3	ボランティアの定着・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ○年間行事計画に基づき、ボランティアへの積極的な情報提供を行い、定着化に努めた。
4	職員体制の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○活動提供(利用者支援)方法を見直し、少人数でも現行支援の維持・向上を図れるよう選択活動制を導入した。
5	サービスの質的向上及び利用者アンケート結果に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ○年間行事計画等に基づき、来所者アンケートの実施及び、ボランティアへの積極的な情報提供を行い定着化に努めた。 ○懇談会を兼ねた見学会を実施した。しかし、家族の高齢化により移動手段や体力面で参加が困難な方が多かった。 ○管理監督職による個別面談を実施し、職員育成を図った。 ○経験年数、支援スキル等に応じて、外部研修への参加を行い、支援スキル向上の機会を提供した。

(3) 今後について

- 利用定員拡大・施設整備・新規利用者受け入れを検討する。
- 利用者・ご家族の高齢化に伴う、介護保険サービス、障害福祉サービスの把握と情報提供を行う。
- 定員拡大等の再整備策について、具体の検討を進めていく。

(4) 主な活動内容

- ①文化創作活動 (手芸・カラオケ・Wiiゲーム・さをり織り・工作 他)
- ②健康支援活動 (フィットネス・スポーツ・足浴・プール・ウォーキング 他)
- ③専門職による相談・指導
(機能維持訓練・嘱託医による相談・ダンス指導 他)
- ④所外活動 (服部緑地公園・ビーバーワールド 他)
- ⑤季節毎のイベント
(花見・セタバイキング・スポーツ大会・流しそうめん・秋まつり・もちつき忘年会・節分豆まき・ひなまつりケーキ 他)
- ⑥生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	平成24年度	平成25年度	対前年度比
さをり製品等の制作・販売	32,800円	32,800円	100.00%
チラシ配布委託業務	70,303円	62,335円	88.67%
計	103,103円	95,135円	92.27%

イ) 利用者1人あたりの年額平均工賃

平成24年度	平成25年度	対前年度比
7,587円	6,035円	79.54%

(5) 在籍者状況 (平成26年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成25年度	16名	47.7歳	9.1年	93.50%	13.8名
平成24年度	15名	46.6歳	7.8年	94.50%	13.6名
平成23年度	14名	47.2歳	8.3年	94.00%	12.4名

平成25年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	5名	6名	5名	0名	0名

6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<園管理運営事業>

(1) 概要

- 障害者等への理解を深めてもらう啓発事業として、箕面保育所の園児23名と付き添いの先生4名を招いて、生活介護事業の利用者とともに「もちつき会」を実施した。合わせて、リフト車両や機械入浴等を見学してもらい、バリアフリー等ノーマライゼーション社会について考える機会とした。
- 図書コーナーの利用頻度が極めて低いため、箕面市及び箕面市聴力障害者協会と協議を行った結果、新たにテレビデオ、DVDプレイヤーを設置し、手話通訳講習ビデオやDVDの無償貸出を開始することとなった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	既存8事業の見直しを検討・協議	○箕面市へ現状の課題（茶道・華道教室利用者の固定化傾向・利用の公平性、営利活動団体の利用制限など）を報告したが、次期指定管理事業者の公募延期に伴い、事業の見直し等結論には至らなかった。
2	次期指定管理に向けた対応 (1)次期指定管理への準備 (2)平成26年度以降の厨房業者選定 (プロポーザルコンペ開催)	○次期指定管理事業者の公募延期に伴い、プロポーザルコンペは実施せず、現行業者と7ヵ月間の契約延長を行った。
3	施設利用基準のあり方を検討・協議	○上記「1」と同様、報告のみに止まり、結論には至らなかった。
4	障害者等の理解促進に係る啓発事業の実施	○当初計画では、市民講座を開催する予定であったが、法人自主事業として「重症心身障害児者といわれる方々と共に生きる会」と共催での勉強会に変更して開催した。 ・日時：平成26年1月24日午後6時30分～午後8時30分 ・講師：社会福祉法人訪問の家・名里晴美理事長、北摂重症児者の拠点作りの会・上野葉子会長 ・参加者：障害当事者の家族、障害者関係事業所職員、市職員等57名 ○近隣保育所との交流を通して、ノーマライゼーション社会について考える機会を設けた。
5	社会福祉増進事業の実施	○大阪府登録喀痰吸引等研修機関として、実地研修及び修了申請事務を実施した。 ・修了者：延べ38名 (うち当福社会職員12名)

(3) 今後について

- 今後の指定管理事業に関しては、全事業の実施内容・効果を検証し、新事業への移行又は事業の廃止を含め箕面市と継続協議を行う。
- 「地域で生きる障害者問題市民講座」は、広報・事前宣伝の充実、実施内容・開催時期等を検討し、次年度も継続実施する。合わせて、地域の保育所、小・中学校等とのイベントを通じた交流も継続する。

(4) ささゆり園利用状況

	24年度	25年度	対前年度比
開館日数	321日	321日	100.00%
利用件数	1,990件	1,899件	95.43%
利用件数/1日	6.2件	5.9件	95.16%
利用者数	25,896名	26,304名	101.58%
利用者数/1件	13.0名	13.9名	106.92%
利用者数/1日	80.7名	81.9名	101.49%

事業名		24年度		25年度		対前年度比 (人数比)
		件数	人数	件数	人数	
障害者社会参加促進事業		42	200	41	240	120.00%
内訳	①茶道教室	21	91	20	103	113.19%
	②華道教室	21	109	21	137	125.69%
ボランティア育成事業		35	165	33	264	160.00%
内訳	①手話講習会「基礎課程」	25	115	23	182	158.26%
	②初級音訳講習会	10	50	10	82	164.00%
啓発事業(市民講座<平成25年度は保育所交流>)		1	153	1	27	17.65%
貸館事業		1,910	25,378	1,824	25,773	101.56%
内訳	①障害者団体	684	12,151	689	12,628	103.93%
	②ボランティアサークル	582	7,062	579	7,246	102.61%
	③外郭・行政関係	149	2,592	136	3,005	115.93%
	④その他	428	3,496	357	2,807	80.29%
	⑤IT室	67	77	63	87	112.99%
合計		1,990	25,896	1,899	26,304	101.58%

※会議室等使用団体数(平成26年3月31日現在)

- ・ 定期利用団体：35団体 (対前年度0増)
 - ・ 随時利用団体：35団体 (対前年度5減)
- ⇒ 合計70団体 (対前年度5減)

6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<生活介護事業>

(1) 概要

- 基本研修を修了した介護職に対して実地研修を実施し、合わせて大阪府の登録喀痰吸引等事業所（登録特定行為事業者）及び認定特定行為従事者（介護職6名、全10行為）に申請し、承認された。
- 平成25年度は医療的ケア（吸引・経管栄養）が必要な方1名と新規で契約（2名の予定であったが1名は辞退）したが、平成24年度末に1名が退所した（他入所施設へ）ため、契約者数は22名となり、昨年度と変更はなかった。また、平均利用率は微増（24年度：88.0%→25年度：89.9%）、障害程度区分の変更により、介護給付費は約590万円増（24年度：約6,749万円→25年度約7,339万円）となった。平成25年度は定期通院（気管カニューレ交換、リハビリなど）による欠席は定期的に見られたが、大きく体調を崩す利用者はいなかった。しかし、利用者の多くが筋ジス等の進行性疾病、医療的ケアを必要とする重複障害、また高齢であるため、機能低下による欠席や入院等（肺炎、気管切開、腫瘍の手術等）による今後の利用予測は極めて困難な状況にある。
- 平成23年度、24年度と実施してきた「トワイライトプログラム」（14：30～20：00）をより発展させ、平成26年度の「宿泊旅行」実施を目指し、平成25年度はささゆり園での宿泊体験（15：00～翌日9：00）を実施した。医療的ケアを必要とする利用者の中には、初めて親から離れて宿泊された方もあり、利用者、家族からも「参加して良かった」との声が多くあった。支援スタッフにとっても、日中活動のみならず、利用者個々の生活全体の理解に繋がった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	介護給付費収入の安定的確保	○上記「概要」のとおり。
2	次期指定管理(定員増等)に向けた対応	○上記「概要」のとおり。また、箕面市へ現状及び今後の課題（現契約者における進路支援順位の公的ルール化など）の報告を行ったが、結論までには至らなかった。
3	幅広い利用者像(障害特性)に適したサービス提供体制の構築	○今年度より障害特性等に応じた3班体制を実施し、適宜体制の検証・見直し等を実施した。
4	機能訓練実施体制の見直し	○平成25年度より作業療法士による機能訓練を月1回から月2回実施に増加させた。その結果、個々の訓練時間が増加し機能維持・向上に繋がった。
5	介護職による喀痰吸引等の実施	○医療的ケアを必要とする利用者へのサービス提供（活動・送迎等）のため、一部介護職員は喀痰吸引研修（実地研修）を修了し実施した。今後、安定的な利用者へのサービスを提供するために順次スタッフを拡大する必要がある。
6	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供の機会の強化 (2) 職員の資質向上及び障害特性に係る専門性の獲得	○業務振り返りチェックシートをもとに、管理職との個別面談を実施した。職員からは「自分自身の現状課題の認識や利用者支援の気づきに繋がった」等の意見、感想を多く聞くことができた。
7	医療的ケアの必要な重度重複障害者の地域生活に係る調査研究の実施	○先進都市視察研修として、昭和60年から重症心身障害のある方々の地域生活を支え、先駆的実践を積み重ねている横浜市の「社会福祉法人訪問の家」への視察研修を実施した。 ・日時：平成25年8月2日午前10時～午後4時 ・参加者：事務局長、所属長、主任等5名

	計 画	実施結果
8	男性介護職の安定的な確保	○求人広告等で募集したが、確保が困難であった。
9	医療的ケアが必要な新規利用者2名の受け入れに伴う看護師体制の構築	○特別養護老人ホーム等退職看護師を、臨時職員として雇用し、常時2名体制の安定的確保を図った。
10	介護技術の標準化への対応	○医療的ケアが必要な方の緊急時対応マニュアル等の作成や定期的に職員内部研修(月1回以上)等を実施し、介護技術の標準化を図った。
11	地域への情報発信、交流	○ブログや機関紙の作成・配布を行い、紙芝居やマジック等のボランティアに繋ぐことが出来た。また、近隣中学校・福祉施設との交流を定期的を実施し、地域との繋がりをつくっていくことが出来た。

(3) 今後について

- 医療的ケア実施体制の充実（指導看護師による介護職研修の適時実施、医療的ケアマニュアル作成等）を図る。
- 医療的ケアを必要とする利用者へ安定的に送迎サービスを実施するため、順次実地研修を実施し、スタッフを拡大していく。
- 宿泊旅行に向けた取り組み（夜間ケアの整理、支援体制検討など）を進める。
- 入浴サービスの見直しを行う。（入浴希望者へ上限週2日の入浴サービスを提供。入浴利用者は年々増加、平成25年度入浴利用者は開始当初と比べてほぼ倍の人数）
- 職員個別面談は継続実施し、職場風土の改善と職員定着率向上に努める。
- 家族の高齢化による介護力の低下に伴い、生活支援（居宅介護、短期入所、入所施設等）についての情報提供を利用者、家族に行いながら他事業所との連携も図る。

(4) 主な活動内容

- ①健康維持活動（バイタルチェック、医療的ケア、プール、足浴、スヌーズレン）
- ②機能訓練（月2回の作業療法士による訓練指導及び日常のエクササイズ）
- ③創作活動（さをり織り、組み紐、季節の創作、イベント開催時等の飾り付け）
- ④園外活動（買い物、散歩、るり溪温泉、鳴尾浜臨海海釣り広場など）
- ⑤音楽活動（カラオケ、音楽鑑賞）
- ⑥ゲーム活動（ボウリング、ポッチャ、風船バレーなど）
- ⑦イベント（季節行事：年6回実施）

(5) 医療的ケア実施状況

内 容		人数
たんの吸引	口腔内	7名
	鼻腔内	7名
	気管カニューレ内部	5名
経管栄養	胃ろう	2名
	腸ろう	1名
	経鼻経管栄養	4名
胃ろう、腸ろうによる与薬		2名
ブジー		1名
合 計(延べ人数)		29名

(6) 在籍者状況（平成26年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成25年度	22名	40.2歳	7.0年	89.90%	17.8名
平成24年度	24名	41.0歳	6.4年	88.00%	16.6名
平成23年度	22名	40.4歳	6.0年	84.70%	15.4名

平成25年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	18名	4名	16名	0名	0名	0名

6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<放課後教室>

(1) 概要

- 平成24年4月より、国制度である放課後等デイサービス事業が開始され、現在市内だけでも8か所、豊中で14か所、その他近隣でも事業所が設立されたため、今後の事業のあり方に関し、箕面市へ状況報告を行った。
- 昨年度に引き続き、本人・家族の意向を踏まえて、社会適応訓練（自力通所に向けた支援）を実施した。
- 昨年度同様、他事業所と連携を図りながら、利用の公平性、利用者・家庭状況等に配慮した曜日の設定を行った。また活動内容に関しては、各曜日についてサービスの均一化を図った。
- 近隣事業所（さんかくひろば）と合同バーベキューを実施（平成25年8月22日）し、他事業所と交流を深めた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	平成26年度以降の事業の方向性を協議	○箕面市へ現状及び今後の課題（待機者0など）について、状況報告を行ったが、結論には至らなかった。
2	社会適応訓練の実施	○平成25年度、新たに1名の社会適応訓練を実施し、自力通園に繋がった。
3	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供の機会の強化 (2) 職員の資質向上及び障害特性に係る専門性の獲得	○業務振り返りチェックシートをもとに、管理職との個別面談を実施した。また、定期的に職員内部研修（月1回以上）等を実施し、介護技術の標準化を図った。
4	専門職との連携	○自閉症等の障害特性については、瀬川地域で実施している支援アドバイザーに助言・指導を仰いだ。

(3) 今後について

- 平成26年度は契約者数が平成25年度に比べ9名減（25年度：24名、26年度：15名）となるため、次期指定管理を踏まえ、本事業の実施内容・効果を検証し、新事業への移行又は事業の廃止を含め箕面市と継続協議を行っていく（27年度は5名卒業、待機者も引き続き0になる予定）。
- 発達障害等への対応に関し、瀬川地域で導入している支援アドバイザーの助言を受けながら、個別の課題に応じた支援の在り方について実践・検証を行っていく。

(4) 主な活動内容

- ①健康活動（散歩、プール、エアマットなど）
- ②調理実習（焼き菓子作り、昼食作りなど）
- ③創作活動（コットンスティックアート、ペットボトルキャップ創作、木工など）
- ④農園活動（野菜、草花栽培）
- ⑤園外活動（公共交通機関の利用、買い物、図書館、亀岡運動公園プールなど）

(5) 在籍者状況（平成26年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成25年度	24名	15.2歳	2.3年	85.80%	8.2名
平成24年度	25名	16.3歳	2.8年	84.70%	8.4名
平成23年度	25名	16.6歳	3.3年	85.00%	8.5名

平成25年度利用者 障害程度区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	0名	10名	5名	2名

※7名は障害程度区分未認定。療育手帳のみ所持。

6. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園〈施設入浴サービス事業〉

(1) 概要

- 実施時間帯（平日夕方）、従事時間（1日2時間程度）の関係から、依然として従事者（登録ヘルパー）の確保が困難な状況にあり、不足分は生活介護スタッフで対応している。
- 生活介護スタッフによる時差出勤対応の実施。（時間外コストの削減）

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	平成26年度以降の事業の方向性を協議	○箕面市へ現状及び今後の課題について、状況報告を行ったが、結論には至らなかった。
2	新規利用者の募集、確保	○箕面市へ現状及び今後の課題（利用年限、送迎、光熱水費等）の報告を行った。また、入浴の相談があった際は、ホームヘルパー、訪問入浴、基準該当サービスなど、何らかの社会資源を活用することにより、最大週6回まで自宅で入浴サービスを受けることができる等の情報提供を実施。
3	送迎体制の見直し	○生活介護職員が実施している送迎を、一部シルバー職員に移行した。
4	人員確保と支援サービスの質的向上 (1)ヘルパーの安定的な確保 (2)支援サービスの質的向上	○ブログの活用、ビラ配布等を実施したが、安定的なヘルパー確保には至らなかったため、生活介護スタッフによる時差出勤にて対応した。 ○マニュアル化には至らなかったが、登録ヘルパーに対し、適時、安全・適切な身体介護技術の指導を行った。

(3) 今後について

- 登録ヘルパーの確保（機関誌、ビラ配布、ブログ等の活用）。
- 登録ヘルパーに依存しない従事体制の検討。
- 生活介護スタッフによる時差出勤対応。（時間外コストの削減）
- 次期指定管理を踏まえ、本事業の実施内容・効果を検証し、事業のあり方について箕面市と継続協議を行っていく。

(4) 施設入浴サービス利用状況

	24年度	25年度	対前年度比
実施日数	245日	244日	99.59%
利用者数	723名	735名	101.66%
利用者数／1日	3.0名	3.0名	100.00%

7. 地域生活総合支援センター〈第2つながりの家・第9つながりの家〉

(1) 概要

- 病気による退去及び欠員の状況が続いたことで減収が懸念されたが、第2つながりの家と第9つながりの家の統合によるサービス単価の変更も影響し、収入としては微増となった。
- 欠員補充の取り組みから、障害程度区分の低い方のグループホームへの入居希望は少ないことが伺えた。
- 食事提供業者を変更することで、365日運営では避けられない1GH・CHにおける複数支援者勤務に伴うサービス提供の質（調理の得手不得手、栄養管理方法等）のばらつき解消・栄養管理体制の確立を図った。また、今までは栄養管理や食材調達・調理業務にかかっていた時間を入居者への支援の時間に切り替えることにより、入居者の高齢化・重度化への対応の充実に繋がった。
- 平成25年度は入居者や家族との面談の中で、365日利用や家族の高齢化に伴う今後の利用日の増加について協議した。その結果、2名については平成26年度から利用日を増やすこととなった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	GH・CH入居者の欠員補充	○病気による退居（1名）や欠員補充を行ったものの本入居に至らなかったことがあり、平成25年度中に欠員の解消には至らなかった。 ※第9つながりの家については、平成25年度下半期に欠員補充を行い、平成26年4月より1名入居という結果になった。
2	365日運営に向けた取り組み	○人員不足で安定的な人員配置ができなかったため、恒常的な運営日の増加には至らなかった。しかし、昨年度に続き運営日外の利用は多く、休日の体験利用の促進に繋がった。
3	入居者の高齢化・重度化への対応	○食事提供業者を変更することで栄養管理体制を確立し、今まで栄養管理や食材調達・調理業務にかかっていた時間を入居者への支援の時間に切り替えることにより、入居者の高齢化・重度化への対応の充実に繋がった。 ○通院等介助サービスの利用相談が増え、居宅介護事業所（ヘルパーステーション「ウイズ」）に繋いだ。 ○成年後見制度の利用を推進するも、必要性は理解されているが、実際の手続きまで進まないのが現状であった。
4	計画的な人員確保と職員育成 (1) 人員確保 (2) 効率的な人員配置と人材育成	○年度当初からの人員不足や職員の退職等もあり、人員の確保ができておらず、効率的な人員配置が出来なかった。職員育成については虐待防止等の研修を取り入れ、スキルアップに努めた。

(3) 今後について

- 欠員が生じているGHの欠員補充を実施する。その際、効率よく欠員補充が出来るよう、体験入居者の募集方法に公募制を取り入れていく。
- 祝日及び祝日前の運営を行い、利用率を向上させることで増収を図るとともに、入居者の365日利用への意識を高めてもらう取り組みを進める。
- 入居者より休日利用の希望があった場合、当該入居者だけでなく、同GH入居者全員の利用を促し、利用率の向上と増収を図っていく。
- 消防法が改正されるため、その対応を検討し実施していく。

(4) 在籍者状況（平成26年3月31日現在）

	平均年齢	平均利用率	
		平成24年度	平成25年度
全体(32人)	41.6歳	80.3%	79.6%
女性(16人)	40.9歳	78.7%	77.1%
男性(16人)	42.3歳	81.8%	82.1%

7. 地域生活総合支援センター〈箕面市障害者ショートステイ室〉

(1) 概要

- 夜勤者が利用者を居室に閉じ込めるといった虐待事案が発生したことを深く反省し、再発防止のため虐待防止研修の実施及び支援方法の見直し等に努めた。
- 宿泊職員2名体制で、出来るだけ多くの利用者を受け入れるよう調整を行ったが、障害程度区分5・6の利用者も多く、延べ利用者は前年度の93名増であった。
- 主たる介護者の急病等による緊急利用（延べ174名）に対応を行った。
- 虐待防止（養護者の負担軽減）のためのショートステイ利用に関する照会が増加した。
- 日中一時支援については、市内で放課後型児童デイサービスの増加により、前年度比で利用者数が33%であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用者受入体制の検討・見直し	○夜勤2名体制で対応可能な範囲で調整を行い、申込が少ない日については宿泊体験登録者に連絡し、利用率を高めるよう対応した。
2	食事提供のあり方見直し	○食事提供については、3営業日前に食材業者に発注する必要があるため、緊急利用時には持参してもらう必要があったが、予備食材を購入し、急な利用者にも出来るだけ食事の提供ができるよう対応した。
3	必要な設備の修繕・新規購入	○買い換え設備の優先順位を検討し、必要なものは新規購入等を行った。
4	人員確保と支援体制の見直し	○人材確保に努めたが、十分に確保出来ず、法人内での応援で対応せざるを得なかった。

(3) 今後について

- 主たる介護者の高齢化によるレスパイト利用の増加、虐待防止（養護者の負担軽減）のための利用増等に対応できるよう、効率的な人員配置を検討する。
- 主たる介護者の急病等による緊急利用については、今年度同様、全て断ることなく受け入れるセーフティーネットとしての機能を維持するため、箕面市からの収支差補助のあり方について、引き続き協議を行っていく。
- 家庭を離れた生活を体験する「体験宿泊」を効率的に実施し、登録者のニーズに対応していく。

(4) ショートステイ室利用状況

	平成24年度	平成25年度	対前年度比率
延べ利用者数 (1日平均)	2,591名 7.0名	2,510名 6.9名	98.6%
短期入所 (1日平均)	2,328名 6.4名	2,421名 6.6名	103.1%
日中一時 (1日平均)	263名 0.7名	89名 0.2名	33.8%

7. 地域生活総合支援センター〈ヘルパーステーション「ウイズ」〉

(1) 概要

- 通院等介助の支援において、これまでの体制を見直して登録ヘルパーで支援することを目標としていたが、利用者の障害特性への対応が困難であったため、支援センターの職員によるサービス提供となることが多かった。
- 居宅介護については、サービスを提供していたグループホーム入居者が病気により退去され派遣を終了したため、前年度と比べて大幅な減収となった。
- 移動支援については、平成25年度に報酬単価の改正があったことに加え、総派遣時間の増加により、前年度と比べて若干の増収となった。
- 全般的にヘルパー不足であり、利用者に対する支援者の拡大には至っていない。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	GH・CHにおける「居宅介護」の利用者拡大	○入居者から通院支援の依頼を受け、居宅介護サービスの通院等介助にて、新たに支援を行うケースもあった。今後も入居者の高齢化に伴う、通院支援の要望が増えるものと予想されるため、支援体制の整備が必要である。
2	通院等介助対応の見直し	○これまでの体制を見直して登録ヘルパーで支援することを目標としていたが、強度行動障害のある利用者への対応等が困難であったため、支援センターの職員によるサービス提供となることが多かった。
3	ヘルパーの研修受講	○慢性的な人員不足もあり、十分な対応が出来なかった。

(3) 今後について

- 従事するヘルパーに求めるスキルについて明確化を図り、それに沿って内部研修等を行い、支援者拡大を図っていく。
- ヘルパー不足を改善するため、ヘルパー派遣を行っている他事業所と連携し、登録ヘルパーを相互利用することについての取り組みを模索していく。

(4) ヘルパー派遣状況（平成26年3月31日現在）

単位：時間

	居宅介護				移動支援	
	通院等介助		同行援護	身体介護	I 類	II 類
	(身体介護あり)	(身体介護なし)			(身体介護あり)	(身体介護なし)
平成25年度	203.0	41.5	251.0	1,287.5	1,133.0	982.5
平成24年度	194.0	38.0	276.5	1,708.0	1,100.7	714.0

- ※居宅介護の身体介護が大幅に減少しているのは、サービスを提供していたグループホーム入居者が退去され、平成25年6月から派遣がなくなったことによる。
- ※移動支援のII類の派遣数については、グループホーム入居者の方が週末にグループホームで過ごされる際、移動支援を使って余暇を楽しまれるケースがあったことや、1月における個々の利用回数が多かったことから、派遣時間が増えている。

7. 地域生活総合支援センター<ウイズ>

(1) 概要

- 箕面市からの相談支援事業（市町村地域生活支援事業）を受託し、障害者市民や家族からの各種相談に対応し、課題の解決に向けた取り組みを行った。
- 平成25年度の相談件数は、延べ757件、実利用者63名、新規相談20名であった。
- 虐待事例への対応では、母子分離後のケアホームへの入居やその後の生活支援について、日中活動施設・ケアホーム・居宅介護事業所等と連携して対応し、ケアホームでの安定した生活に繋がった。
- 箕面市地域自立支援協議会に参加し、社会資源の情報交換や虐待事例への対応、精神障害者の地域移行などについて課題検討を行った。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	契約者拡大への対応 (1) サービス等利用計画の作成 (2) モニタリングへの対応	○支援学校高等部卒業生（5名）と受給者証の更新者（5名）についてサービス等利用計画の作成を行ったが、23名の待機者が残った。 ○各サービス提供事業所と連携し、モニタリング対応を行った。また、モニタリングの結果、計画の変更が必要になったケースの対応も行った。
2	困難事例への対応 (1) 福祉サービスの利用に繋がっていない在宅の障害者市民への支援 (2) 虐待事例への対応	○定期的に訪問を行い、必要かつ利用可能な障害福祉サービスの検討を行ったが、実際の利用には繋がらなかった。今後も継続的に訪問を行い、ニーズ発生時には迅速に対応していく必要がある。 ○箕面市障害者虐待防止センターと連携し、対応した。発見時の通報及び家族の負担軽減のためショートステイの利用などの調整を行った。
3	成年後見制度の利用促進	○地域包括支援センターと連携し、両親が高齢の家族に働きかけを行った。
4	相談支援専門員の育成	○初任者研修（2人）、現任研修（4人）に職員を派遣した。
5	相談支援サービスのマニュアル化	○サポートブックの活用及び一部独自マニュアルを作成した。

(3) 今後について

- 計画相談契約者の増加や支援学校高等部卒業者の計画相談で、年度末に業務が非常に繁忙となることが予想されるが、相談者の一人ひとりの置かれている状況を十分把握し、その人の希望に応じたサービス等利用計画を作成していく。また、作成した計画相談の進捗管理であるモニタリングについては、利用されている事業所と連携を密にして対応していく。
- 虐待事例や困難事例の対応には、箕面市虐待防止センターとの連携は不可欠であるので、今後も連携を密にして対応していく。
- 福祉サービスを利用されず、在宅状態の障害者市民やその家族には、定期訪問等で福祉サービスの利用について啓発を行っていく。

(4) 相談状況（平成26年3月31日現在）

①経路別

単位：人

	身体障害	重症心身	知的障害	その他	合計
訪問	2	47	307(1)	0	356(1)
来所	1	4	55	0	60
同行	0	4	0	0	4
電話	4	29	287	2	322
電子メール	0	0	8	0	8
個別支援会議	1	3	0	0	4
関係機関	0	0	2	0	2
合計	8	87	659(1)	2	756(1)

※括弧内は児童の相談件数

②内容別

単位：人

	身体障害	重症心身	知的障害	その他	合計
福祉サービスの利用	7	80	537(1)	1	625(1)
障害や病状の理解	0	0	11	0	11
健康・医療	0	1	16	0	17
不安解消・情緒安定	0	0	10	0	10
家族関係・人間関係	0	0	0	0	0
家計・経済	0	0	2	0	2
生活技術	0	0	9	0	9
就労	0	0	2	0	2
社会参加・余暇活動	0	0	7	0	7
権利擁護(後見)	0	0	8	0	8
権利擁護(虐待)	0	0	8	0	8
その他	0	0	57	1	58
合計	7	81	667(1)	2	757(1)

※括弧内は児童の相談件数

8. 事故・苦情・ヒヤリハット等の状況

(1) 苦情解決システムに基づく対応

平成25年度、苦情解決システムに基づき対応した事案はなかった。

(2) 事故・苦情・ヒヤリハットの取りまとめ状況

①事故

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
与薬に関するもの	ワークセンター ささゆり	2件	内容 誤薬・与薬忘れ 原因 与薬管理・確認手段の不備	利用者の与薬状況に応じた、与薬・確認方法の周知徹底
	あかつき園	0件		
	わんすてっぷ	0件		
	ささゆり園	0件		
	グループホーム	3件	内容 誤薬・服薬忘れ 原因 与薬管理・確認手段の不備	利用者の与薬状況に応じた、与薬・確認方法の周知徹底
	ショートステイ	6件	内容 誤薬・服薬忘れ・与薬量の誤り 原因 与薬管理・確認手段の不備	利用者の与薬状況に応じた、与薬・確認方法の周知徹底
	居宅介護・ 移動支援	0件		
合計件数		11件		

怪我	ワークセンター ささゆり	13件	内容 打撲・ねんざ・擦り傷・裂傷 原因 てんかん発作・環境の不備 職員の不注意、対応力不足	安全環境の整備 職員の安全教育の徹底 職員の危険予知・対応力の向上
	あかつき園	0件		
	わんすてっぷ	2件	内容 擦り傷・裂傷 原因 安全環境の不備 引き継ぎの不備	安全環境の整備 引き継ぎ事項の確認
	ささゆり園 (生活介護)	2件 (内1件は職員 自身による怪 我)	内容 打撲、圧傷 原因 職員の不注意 安全環境の不備 体調管理の不備	適切な体調管理 安全環境の整備 安全確認の徹底
	ささゆり園 (入浴)	1件	内容 擦り傷 原因 職員の不注意	安全確認の徹底
	ささゆり園 (放課後)	0件		

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
怪我	グループホーム	1件	内容 打撲 原因 安全配慮不足 安全環境の不備	安全配慮の徹底 安全環境の整備
	ショートステイ	0件		
	居宅介護・ 移動支援	0件		
合計件数		19件		
他傷行為による怪我	ワークセンター ささゆり	10件 (内、職員が怪我を負ったもの4件)	内容 ひっかき傷、打撲 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・安全環境の整備 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	あかつき園	1件 (職員に対するもの)	内容 打撲 原因 安全配慮不足 利用者の心的状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	わんすてっぷ	3件 (全件、職員に対するもの)	内容 かみ傷、裂傷 原因 利用者の心的状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	ささゆり園 (生活介護)	0件		
	ささゆり園 (入浴)	1件	内容 かみ傷 原因 利用者の心的状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	ささゆり園 (放課後)	3件	内容 ひっかき傷、かみ傷 原因 利用者の心的状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	グループホーム	0件		
	ショートステイ	2件	内容 打撲 原因 利用者の心的状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	居宅介護・ 移動支援	0件		
合計件数		18件		

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
自傷行為による怪我	ワークセンター ささゆり	1件	内容 打撲 原因 利用者の状態把握不足 行動障害	・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	あかつき園	0件		
	わんすてつぷ	0件		
	ささゆり園 (生活介護)	0件		
	ささゆり園 (入浴)	0件		
	ささゆり園 (放課後)	0件		
	グループホーム	1件	内容 打撲 原因 利用者の心的状態把握不足	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握
	ショートステイ	2件	内容 打撲 原因 利用者の心的状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
居宅介護・ 移動支援	0件			
合計件数		4件		

器物破損に伴う怪我	ワークセンター ささゆり	1件	内容 切り傷 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・安全環境の整備 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	あかつき園	0件		
	わんすてつぷ	0件		
	ささゆり園 (生活介護)	0件		
	ささゆり園 (入浴)	0件		
	ささゆり園 (放課後)	0件		
	グループホーム	1件	内容 切り傷 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	・安全配慮の徹底 ・利用者の心的状態を適切に把握 ・安全環境の整備 ・行動障害に関する、支援スキルの向上
	ショートステイ	0件		
	居宅介護・ 移動支援	0件		
	合計件数		2件	

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
器物破損	ワークセンター ささゆり	4件	内容 拘り行動や衝動的な行動による備品等を投げつける等の行為によるもの 原因 利用者の状態把握不足 行動障害	<ul style="list-style-type: none"> 安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 安全環境の整備 行動障害に関する、支援スキルの向上
	あかつき園	0件		
	わんすてつぷ	0件		
	ささゆり園 (生活介護)	0件		
	ささゆり園 (入浴)	0件		
	ささゆり園 (放課後)	0件		
	グループホーム	1件	内容 拘り行動や衝動的な行動により備品を投げつける 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	<ul style="list-style-type: none"> 安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 安全環境の整備 行動障害に関する、支援スキルの向上
	ショートステイ	2件	内容 拘り行動や衝動的な行動により壁を殴ったり、備品を投げつける 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	<ul style="list-style-type: none"> 安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 安全環境の整備 行動障害に関する、支援スキルの向上
合計件数	7件			
その他、車両事故等		車両事故2件(後方不注意) 無断外出2件(ショートステイ) 誤嚥1件(ワークセンター)		

②苦情

部署	件数	内容	原因	解決状況
ワークセンター ささゆり	7件	送迎サービスの変更に係る苦情	周知の遅れ 送迎体制にかかる説明不足によるため	謝罪及び送迎体制の状況について説明し理解を得た
		送迎中の支援に関する苦情(2件)	当該利用者に関する、支援内容・支援方法について理解が得られなかったため	当該利用者の状況等について、ご家族の意図を汲んだ支援を行いつつ、事業所としての考えを伝えようとしたが、理解を得ることができなかった
		発作時の対応にかかる依頼等に関する担当者の対応の遅れなどに関する苦情	依頼内容の把握が不十分且つ迅速に対応しなかったため	本件の把握状況について説明及び謝罪し、今後について適切且つ迅速な対応を行うことを約束し理解を得た
		利用日数の相談についての職員の対応に係る不満	当該相談者の相談内容の意図を汲み取れなかったため	本件の相談内容に意図を十分聞き取らなかった点を謝罪し理解を得た

部署	件数	内容	原因	解決状況
		その他、 利用者の私物管理に係る苦情1件、 利用者間の怪我に際しての職員の謝罪態度に係る苦情1件、 いずれも、謝罪し理解を得た		
あかつき園	0件			
わんすてっぷ	1件	送迎時に所定の時刻に当該利用者が不在であったため、自宅へ電話連絡したが不在であったため通過したことに関する苦情	送迎時に定刻に不在の場合は「通過」する旨の理解が得られなかったため	送迎時の左記のルールについて、詳しく説明したが理解は得られなかった
ささゆり園	0件			
グループホーム	3件	利用者の居室の衛生管理が不十分であり、サビ管の職務怠慢であるとの苦情	各居室の衛生面の管理が不十分であったため	本件について謝罪し、サビ管より、今後の居室の衛生管理方法を提案し理解を得た
		利用者の私物が適切に管理されていないとの苦情	世話人・登録ヘルパーの利用者の私物管理意識が不十分であったため	本件について謝罪し、利用者の私物管理について、世話人・登録ヘルパーに指導を徹底することで理解を得た
		重要事項説明書の取扱について、説明が不十分であるとの苦情	世話人に対して、当該取扱について周知徹底が不足していたため	今後、世話人に対しても各種事務的な取扱についても、周知し適切な取扱を指導する旨説明し理解を得た
ショートステイ	1件	利用受付に係る、担当職員の対応に関する苦情	利用者の立場に添った受け答えを行う姿勢が不十分であったため	当該職員及び利用受付に係る職員に対して、丁寧な対応と十分な説明を行うよう指導
居宅介護 移動支援	0件			
合計件数	12件			

③ヒヤリハット

部署	件数	内容
ワークセンターささゆり	8件	<ul style="list-style-type: none"> * 怪我に至る恐れがあった事案(2件) * 無断外出・所在不明に至る恐れがあった事案(2件) * 異性への不適切な行動(服をめくる)に至る恐れがあった事案 * 送迎車両に乗車できなかった恐れがあった事案 * 利用者間の怪我の状況が把握できなかった恐れがあった事案 * 利用者の行動予測により、未然に他利用者への他傷行為を防げた事案
あかつき園	1件	<ul style="list-style-type: none"> * 送迎車両に乗車できなかった恐れがあった事案
わんすてっぷ	3件	<ul style="list-style-type: none"> * 送迎時に所定の時刻に当該利用者が不在で通過し、所在不明に至る恐れがあった事案 * 所外活動時に横転し怪我に至る恐れがあった事案 * 利用者の行動予測により、未然に他利用者への他傷行為を防げた事案
ささゆり園	1件	<ul style="list-style-type: none"> * 与薬のミスに繋がる恐れがあった事案
グループホーム	2件	<ul style="list-style-type: none"> * 登録ヘルパーの勤務日の勘違いにより、業務に支障をきたす恐れがあった事案 * 利用者自身が管理する風邪薬を紛失した事案
ショートステイ	9件	<ul style="list-style-type: none"> * 利用者への安全配慮の不足により、怪我に至る恐れがあった事案(3件) * 電話対応の不備により、他事業に支障をきたす恐れがあった事案 * 食材の発注ミスにより、食事提供に支障をきたす恐れがあった事案 * 十分な引き継ぎを行わなかったことにより、ご家族の不信感に繋がる恐れがあった事案 * 利用者の誤薬に繋がる恐れがあった事案(2件) * 利用者の無断外出・所在不明に繋がる恐れがあった事案
居宅介護・移動支援	4件	<ul style="list-style-type: none"> * 公共交通機関や公共スペースで他の方に迷惑を来す恐れがあった事案(3件) * 誤嚥に至る恐れがあった事案
合計件数	28件	

9. 地域参加・交流状況

(1) 納涼祭

実施日時： 8月23日（金） 17:00～19:00
実施場所： 瀬川地区敷地内
地域参加者： 約193名
協力団体： 8団体
利用者参加者： 37名
職員従事者： 44名
内容： 盆踊り、ゲームコーナー、模擬店、マジックショーなど

(2) 西南ジャンボリー

実施日時： 8月31日（土） 14:00～17:30
実施場所： 西南小学校グラウンド
参加者数： 98名
実行委員会： 3回実施
職員従事者： 4名
内容： 車いす体験コーナー

(3) いきいきふれあい広場

実施日時： 11月9日（土） 10:00～14:30
実施場所： 西南公民館
利用者参加者： 2名
職員従事者： 5名
内容： 野菜、さをり製品等の販売

10. 職員研修実施状況

(1) 法人全体研修

実施日	研修内容	参加者数	講師
平成25年7月19日～ 平成25年10月25日	障害者虐待防止法と障害特性	116名	法人職員 (管理・監督職)

(2) 事業・施設別研修参加状況

	平成24年度	平成25年度
法人本部	6名 (6件)	7名 (3件)
あかつき園	12名 (7件)	25名 (9件)
ワークセンターささゆり	26名 (14件)	19名 (6件)
わんすてっぷ	5名 (5件)	5名 (5件)
ささゆり園	171名 (44件)	170名 (30件)
地域生活総合支援センター	11名 (5件)	16名 (6件)
合計	231名 (81件)	242名 (59件)

	研修内容
法人本部	平成25年安全運転管理者等法定講習、平成25年度新会計基準移行のための実務担当者研修、相談支援従事者研修など
あかつき園	平成25年度サービス管理責任者研修、全国自閉症施設協議会研修、近畿社会就労センター総合研究大会、箕面市人権セミナー、発達障害者の未来を拓くなど
ワークセンター ささゆり	サービスマナー・セミナー初級、全国自閉症協議会大阪大会、安全な移乗・移動介護技術、相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修、箕面市人権セミナーなど
わんすてっぷ	ホワイトボードミーティング研修、ホワイトボードケース会議研修 全国自閉症者施設協議会大阪大会、福祉職員研修(中堅職員)など
ささゆり園	サービスマナー・セミナー初級・中級、嚙下機能研修、てんかん基礎講座、医療的ケアが必要な重症心身障がい児者に対応する身体介護技術研修、高次脳機能障がい研修会、喀痰吸引研修(実地研修)、地域作りフォーラム(青葉園)、相談支援従事者研修など
地域生活総合 支援センター	福祉専門職講座(新任研修)、福祉専門職講座(中堅研修)セルブ協「GH・CH法改正について」、GH・CH世話人等研修、相談支援専門員初任者研修、相談支援専門員現任研修など

11. 実習生受入状況

(1) 進路支援に係る実習

受入施設	実習元	実人数	述べ人数	述べ日数	目的
あかつき園	箕面支援学校	2名	4名	4日	支援学校卒業後の進路先を検討するため
	豊中支援学校	4名	8名	8日	
ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	1名	1名	1日	
	豊中支援学校	1名	1名	1日	
	大阪市立盲学校	1名	1名	1日	
ささゆり園	箕面支援学校	3名	7名	3日	
わんすてっぷ	個人	1名	1名	6日	あかつき園からの進路先を検討するため
	合計	13名	23名	24日	

(2) その他

受入施設	実習元	実人数	述べ人数	述べ日数	目的
あかつき園	箕面市	2名	10名	10日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育 専門学校	2名	2名	2日	体験実習
	仏教大学	3名	15名	15日	体験実習
	京都市立芸術大学	2名	10名	10日	体験実習
	京都造形芸術大学	2名	10名	10日	体験実習
ワークセンターささ ゆり	箕面市	6名	18名	18日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育 専門学校	4名	4名	4日	体験実習
	ジョイント	1名	1名	1日	職員研修
わんすてっぷ	箕面市	4名	11名	11日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育 専門学校	3名	3名	3日	体験実習
ささゆり園	ニッソーネット	1名	1名	1日	体験実習
	パソナ	1名	1名	1日	体験実習
	箕面学園福祉保 育専門学校	3名	3名	3日	体験実習
	箕面市	4名	17名	17日	福祉体験学習
	合計	34名	102名	106日	

12. ボランティア受入状況

事業・施設名	参加内容	参加回数	述べ参加者
あかつき園	製袋作業	84回	106名
	農園作業	144回	402名
ワークセンター ささゆり	日中活動	56回	70名
	所外活動・イベント	16回	133名
わんすてっぷ	日中活動	44回	44名
	所外活動・イベント	4回	7名
ささゆり園	楽器演奏・コンサート・紙芝居・文楽など	11回	61名
	合計	359回	823名

13. 視察・見学状況

(1) 受入状況

施設・事業	視察・見学元	人数	目的
あかつき園	箕面市立西南小学校	128名	施設見学
	箕面市立第3中学校	6名	施設見学
	箕面市進路保障協議会	3名	進路に係る社会資源の視察
	豊中支援学校高等部保護者、教員	6名	進路に係る社会資源の視察
ワークセンター ささゆり	箕面市立第3中学校PTA	18名	施設見学
	明光ワークス	2名	施設見学
	箕面支援学校高等部保護者、教員	4名	進路に係る社会資源の視察
	大阪市立視覚支援特別支援学校	5名	進路に係る社会資源の視察
	箕面市進路保障協議会	3名	進路に係る社会資源の視察
	箕面市市議会議員	2名	施設見学
	箕面市立西南小学校	128名	施設見学
	箕面市立第3中学校教員	8名	施設見学
	中小学校地区民生委員	12名	施設見学
ささゆり園	社会福祉法人よさのうみ福祉会	1名	施設見学
	豊中支援学校	2名	施設見学
		2名	進路に係る社会資源の視察
	日本福祉大学	3名	施設見学
	藍野大学	1名	施設見学
わんすてっぷ	箕面支援学校	1名	施設見学
	箕面市社会福祉協議会	3名	施設見学
	箕面市	3名	施設見学
	聖母被昇天学院中等部	3名	施設見学
	合計	344名	

(2) 視察・見学実施状況

施設・事業	見学・視察先	人数	目的
あかつき園	い〜な・グーテン	1名	進路支援
	わんすてっぷ	1名	進路支援
ワークセンターささゆり	ジョイント	1名	進路支援
わんすてっぷ	ロ・スカーロあおまだに	1名	高齢化に伴う進路支援
	光明の郷ケアセンター	1名	高齢化に伴う進路支援
ささゆり園	社会福祉法人訪問の家 朋、郷ほか	2名	医療的ケアが必要な重度重複障害者の地域生活に係る調査研究
	社会福祉法人三養福祉会 箕面の郷	3名	進路支援
	社会福祉法人大阪手をつなぐ育成 会 支援センターい〜な・グーテン	2名	施設見学
	合計	12名	

14. 講師派遣状況

派遣先	件名	派遣講師
箕面市肢体不自由児者父母の会	夏期療育キャンプボランティア介護基礎講習会	小山祥子
箕面市立第3中学校PTA	3中校区まちかどウォーク	加藤隆之

15. 役員名簿

(1) 理事

平成26年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
理事長	永田 吉治	箕面ライオンズクラブ	理事	地域の福祉関係者
副理事長	千馬 外代美	箕面市肢体不自由児者父母の会	副会長	地域の福祉関係者
理事	西尾 英子	箕面手をつなぐ親の会	会長	地域の福祉関係者
理事	平井 博文	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	地域の福祉関係者
理事	井上 義人	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	地域の福祉関係者
理事	小山 隆	同志社大学社会学部	教授	学識経験者
理事	吉田 功	社会福祉法人暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	地域の福祉関係者
理事	川端 崇且	箕面ロータリークラブ	理事	学識経験者
理事	森 輝和	箕面市身体障害者福祉会	副会長	地域の福祉関係者
理事	村田 尚記	箕面市健康福祉部	次長	行政関係者
理事	亀谷 雅彦	社会福祉法人あかつき福祉会	あかつき園園長	施設長

(2) 監事

平成26年3月31日現在

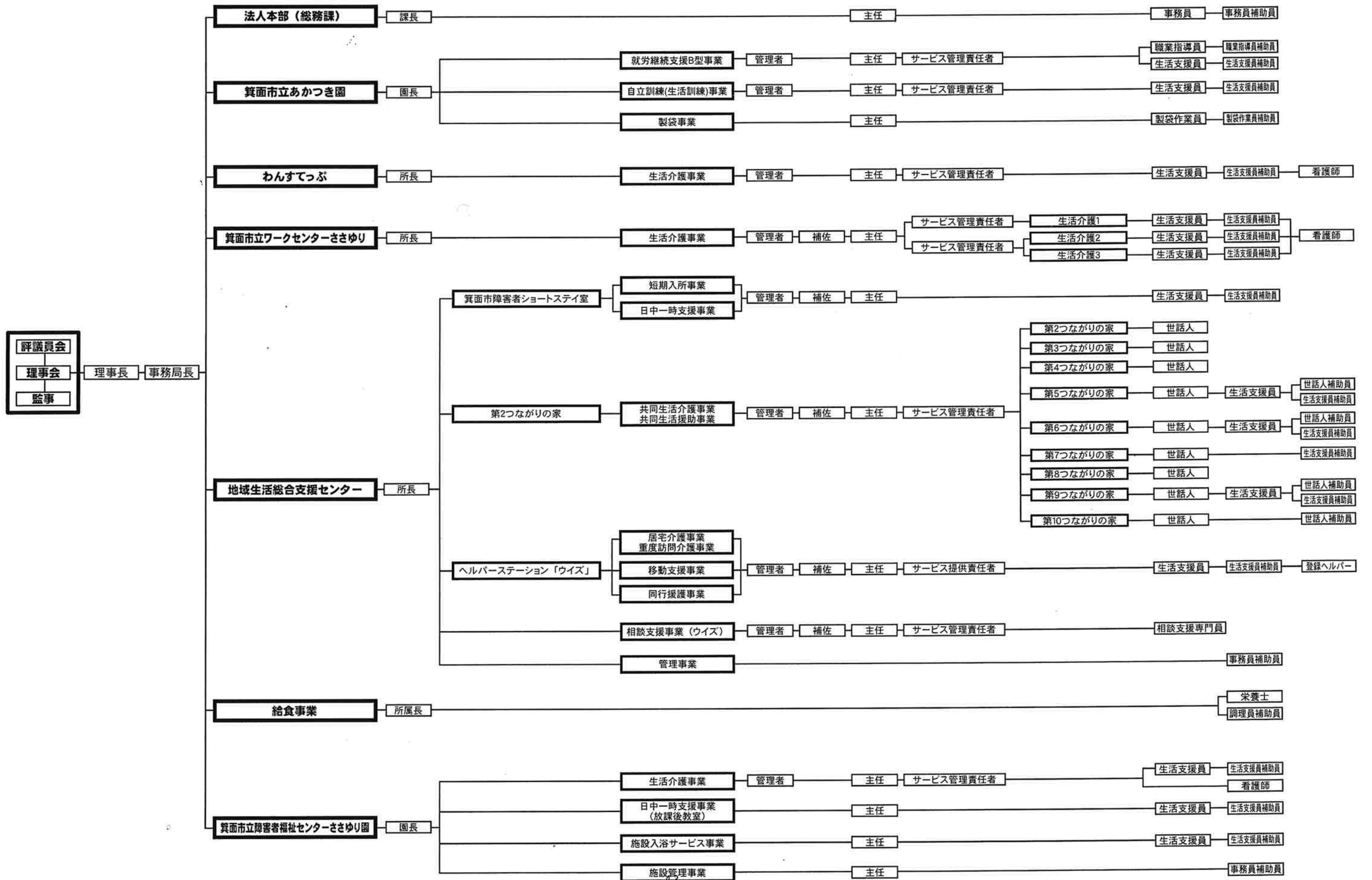
役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
監事	寺内 勇	社会福祉法人翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	監事	学識経験者
監事	谷口 あや子	箕面市会計室	会計管理者 兼 室長	行政関係者

(3) 評議員

平成26年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員	牧野 史	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	事務局長	地域の福祉関係者
評議員	甲斐 節男	西南小地区福祉会	西南小地区福祉会 会長	地域の福祉関係者
評議員	石田 宇佐美	箕面市民生委員児童委員協議会	元地区委員長	地域の福祉関係者
評議員	下司 良一	一般財団法人箕面市障害者事業団	就労支援課 課長	地域の福祉関係者
評議員	久代 美津恵	箕面市身体障害者福祉会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	高橋 栄子	箕面市肢体不自由児者父母の会	幹事	地域の福祉関係者
評議員	前田 比呂志	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団	特別養護老人ホーム 白島荘 施設長	地域の福祉関係者
評議員	須郷 紳弘	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団	明光ワークス 所長	地域の福祉関係者
評議員	植田 恵美子	社会福祉法人 息吹	理事長	地域の福祉関係者
評議員	山中 剛司	箕面ロータリークラブ	社会奉仕委員会 委員長	学識経験者
評議員	爲永 順子	箕面商工会議所	副会頭	学識経験者
評議員	中元 正文	大阪府立豊中支援学校	進路部代表	学識経験者
評議員	村西 啓二	大阪府立箕面支援学校	進路指導部 副部長	学識経験者
評議員	日根 真理	箕面市西南小地区青少年を守る会	会長	学識経験者
評議員	浅岡 建三	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
評議員	多田 育雄	NPO法人ラポール	監事	学識経験者
評議員	後藤 統雄	箕面市赤十字奉仕団	常任理事	学識経験者
評議員	江口 寛	箕面市人権文化部人権国際課	課長	行政関係
評議員	長谷川 千波	箕面市健康福祉部障害福祉課	課長	行政関係
評議員	野本 淳子	箕面市教育委員会事務局子ども未来 創造局人権教育課	課長	行政関係
評議員	加藤 隆之	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立障害者福祉センターささゆり園	園長	地域の福祉関係者
評議員	古川 伸吾	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立障害者自立支援センター (箕面市立ワークセンターささゆり)	所長	地域の福祉関係者

16. 平成25(2013)年度組織図



17. 平成25(2013)年度職員内訳

平成26年3月31日現在

部局名	正規職員	支援職員	臨時職員	合計
法人本部	4名	3名	1名	7名
あかつき園	2名	4名	7名	14名
わんすてっぷ	1名	2名	1名	4名
ワークセンターささゆり	6名	8名	26名	40名
障害者福祉センターささゆり園	3名	5名	17名	25名
地域生活総合支援センター	4名	17名	13名	34名
厨房	0名	1名	6名	7名
合計	20名	40名	71名	131名

注1) 法人本部の支援職員には、障害者職員を含む

注2) あかつき園には、製袋担当職員を含む

注3) 厨房の支援職員は、障害者職員

注4) 臨時職員数には、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注5) その他、登録ヘルパー約39名(実質稼働者数)